

## 「アースデイとやま 2025」全体報告

アースデイとやま実行委員会一同（文責：事務局長 横畑泰志）

### ■はじめに

「アースデイとやま」は1991年以降富山県内各地で5月前後に毎年開催され、市民の手によるものとしては県内最大の環境啓発イベントとして、環境問題への取り組みや市民団体の連携についてさまざまな成果を上げてきました。2020年、2021年には新型コロナウイルス感染症への対応のため、これまで例のない秋期のオンライン開催の形での実施となり、2022、2023年には富山城址公園を会場とし、例年通り対面での開催となりましたが、従来よりもかなり小さな規模となりました。2024年は「令和6年能登半島地震」（以下、能登半島地震）などを受けてテーマを「富山で地球を考えよう」とし、富山大学五福キャンパスを会場として、アースデイとやまの新たな幕開けを予感させるイベントとなりました。これを受けて、2025年は同じ富山大学五福キャンパスでの開催となりました。

### アースデイとやま 2025

テーマ：「富山でつくるみんなの未来」

日時：2025年6月7日（日）10:00～16:00 場所：富山大学五福キャンパス（富山市五福 3190）

共催：富山大学、富山大学生生活協同組合

後援：富山県、富山市、富山県教育委員会、富山市教育委員会、富山県立大学、富山国際大学、富山短期大学、富山県生活協同組合連合会、（公財）とやま環境財団、とやま森づくりサポートセンター、（一社）環境市民プラットフォーム

アースデイとやまホームページ URL：<http://earthday-toyama.org>

### ■アースデイとやま 2025 のテーマについて（アースデイとやまホームページより）

私たちは、立山連峰や富山湾をはじめとした、豊かな自然に囲まれた富山に暮らしています。こうした身近な自然環境と、その中で暮らすさまざまな人々や生きものたち、未来に向かって共に過ごしていくためにはどうしたらよいのでしょうか。今年のアースデイとやまでは「地球とそこに生活する人々・生きもの」という広い視点で、さまざまな分野の専門家や、多国籍の出展者・来場者ととともに、私たちの暮らす「富山の未来について考える」きっかけとなる一日を目指します。

### ■アースデイとやま 2025 実行委員会の運営体制、準備の経緯について

2024年度は当初会場として予定していた富山城址公園が能登半島地震の影響で使用できなくなり、いくつかの代替地を検討しましたが、最終的に富山大学五福キャンパスで開催することになりました。富山大学を共催団体に加えると会場費が無料になり、備品の貸与が受けられるなどの大きな利点がありますが、これにあたってはいずれかの学部の代表者に了解を取る必要があります。松田恒平・理学部長に相談したところ、ご快諾をいただきました。2025年度はこれらの経緯を踏襲し、速やかに準備を進めることができました。実行委員会の役割分担も、2024年同様に実行委員長を遠山和大氏（富山大学総合情報基盤センター）、副実行委員長を橋本順子氏（土遊野農場）、事務局長を横畑泰志氏（富山大学理学部）が担うことになりました。2024年12月16日の準備会の後、実行委員会の会合は7回開催され、第

1回（2025年1月23日）～第7回（同年6月2日）まですべてZOOMによるオンライン開催となりました。コロナ禍の影響によって2023年までの4年間にわたり出展・出店者からの賛同金を含む出展・出店料が十分に確保できておらず、2024年も財政的に非常に厳しい状況下での準備となりましたが、会場費が無料になり、展示パネルなどの多くの備品が大学から貸与されたことで、大きな困難なく準備を進めることができ、2025年も同様に財政的には安定した状況での準備となりました。

課題となったのは昨年同様のボランティアの募集で、これまでに培ってきた富山大学内の学生集団の協力がコロナ禍以降ほとんど得られなくなっており（図1）、さらに大学がこれまでの前後期制から4ターム制となったことでアースデイとやまの当日が第1タームの試験期間に重なってしまいました。この影響は今後も続きますが、最終的に富山大学生協学生委員会社会貢献チームなどからの参加があり、昨年度よりも多くのボランティアの参加が得られました。

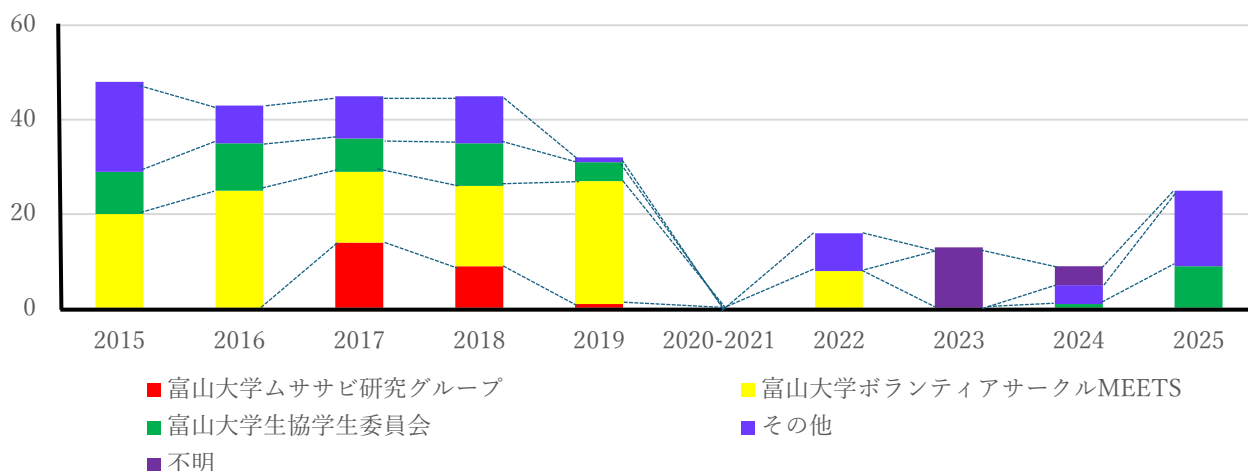


図1. アースデイとやまにおけるボランティア数の変遷 (2015～2025年)

## ■アースデイとやま 2025 の広報について

アースデイとやまはこれまでにデザイナーによるデザインや一般公募、関係者に提供された写真や絵の組み合わせなどさまざまな方法でポスターを作製してきました。アースデイとやま 2025 では、2024 年度に出展者として参加、写真展を開催していただいた方が実行委員会に参加されたので、多数の写真を提供していただき、それらを動物、植物、人間などを象徴するものとして組み合わせたポスターが作られました（図2）。この試みは好評で、2026年にも引き継がれています。また、昨年同様ホームページにリンクするQRコードを印刷しています。

おまて  
表面に同じ図案を用いたチラシも例年と同程度の5000枚作成し、出展・出店者や公共・教育機関、会場となった富山大学の教員等に配布しました。ホームページに加えて、従来同様にFacebook (<https://www.facebook.com/EarthdayToyama/>) も開設しました。



図2. アースデイとやま 2025 のポスター

従来の議論で、特に若い世代に対してはホームページやFacebookより、SNSやInstagramの訴求力・拡散力が強いと指摘されていましたが、現時点では十分な運用にまでは至らず、来年度以降に課題を残しました。昨年度は、新しい取り組みとして関係団体（環境市民プラットフォームとやま）のFacebookで有料の広告を立ち上げましたが、今回は行うことができませんでした。2026年度には復活が望まれます。

### ■当日の取り組みについて

「アースデイとやま2025」は、2025年6月7日（土）に開催されました。当日は昨年度（48件）よりやや少ない39の団体・個人による出展・出店、ホールでの映画上映（地球交響曲 ガイアシンフォニー 第一番）、ステージでのワークショップ、音楽演奏（図3）などが学生会館やその周辺で行われました（図4）。天候にも恵まれ、予定通りの開催となり、火器を用いる出店者（図4の黄色）に対して毎年行っている消防署の立ち入り調査でも、昨年度同様特に問題は見られませんでした。



図3. 学生会館ラウンジ内ステージでの音楽演奏

アースデイとやまでは、2018年以来出展・出店者のブースごとに各自の活動内容がSDGsの17目標のどれに該当するかの表示（SDGsラベリング）を行っています（図4、5）。これは各出展・出店者の活動

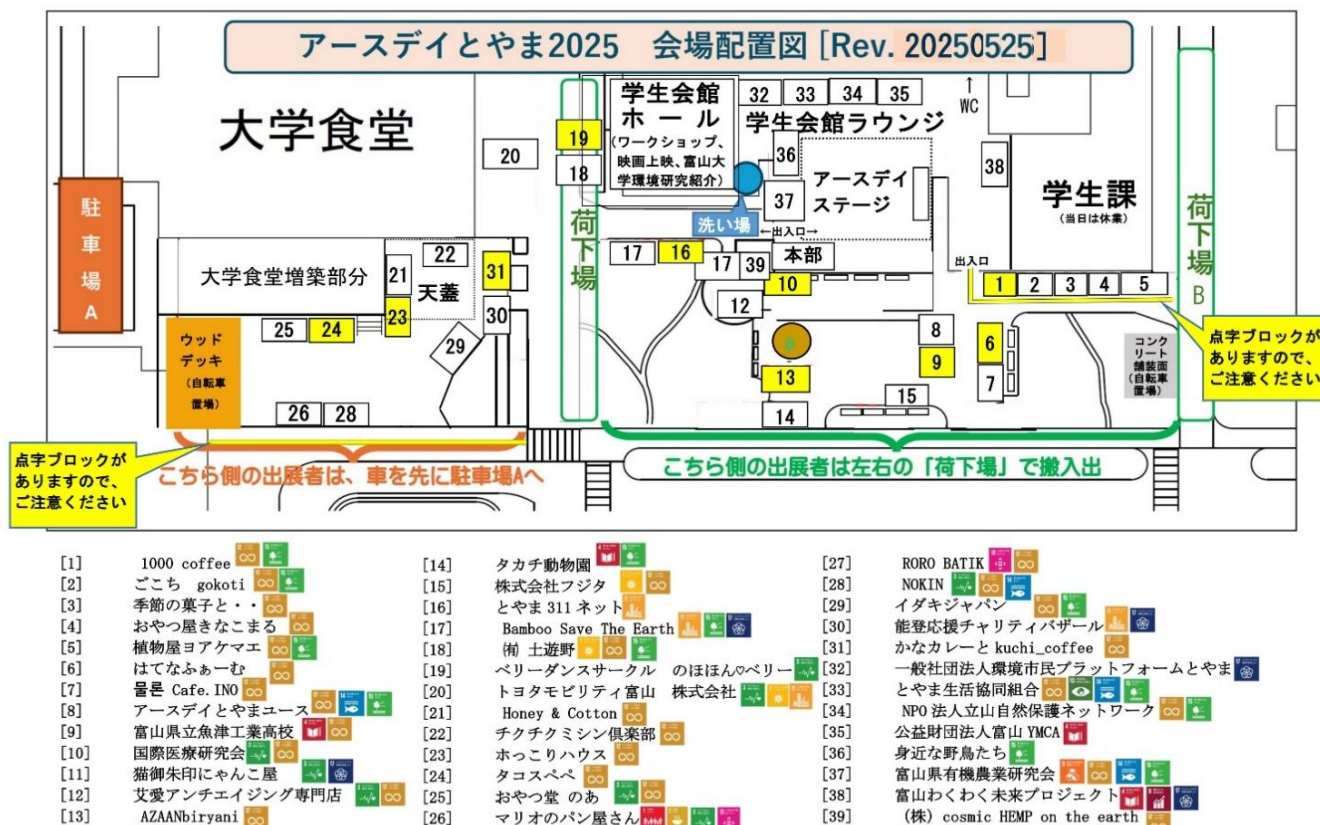


図4. アースデイとやま2025 会場配置図（出展・出店者名の右のアイコンは関連するSDGs目標）

を一般来場者にわかりやすく伝える配慮の一環であるとともに、富山県のような地方ではしばしば自治体や企業などと較べて市民団体のSDGsに対する関心が盛り上がり乏しいとされることに対して、各出展・出店者に自らの活動とSDGsとのつながりを考えていただく機会を設けようとするものでした

(もちろん、初めから意識が高く、その必要のない団体も数多く見受けられます)。その目的のため、初期には各出展・出店者に自分の活動とどの目標が



図 5. SDGs ラベリングの例 (白い丸印)

関連するかを申し出ていただいていたのですが、最近では参加のハードルを下げるために事務局から提案する形に変わってきており、出展・出店者の自発性という観点では後退しています。

以下にステージのプログラムを記します (♪は音楽演奏)。

10:00 オープニング 開会宣言 (実行委員長 遠山和夫さん)

10:00~ ネパールダンス (NPO 法人富山国際学院 学生さん) ♪

10:10~ モンゴルダンス (ツァガンダリさん) ♪

10:20~ にゃんこ行者の小唄 ♪

10:35~ NPO 法人日本文化交流センターさん

10:55~ 環境市民プラットフォームとやま (PEC とやま)・アースデイとやま 2025 トーク

・PEC とやまの取り組み

・能登半島地震災害支援活動の今 (とやま 311 ネット)

・公益財団法人富山 YMCA の取り組み

11:40~ とんがり山さん ♪

12:00~ 谷中秀治さんと竹宮マリオさん ♪

12:10~ SAMBA LABO さん ♪

12:40~ 竹宮侑志さん 麦屋節と古代神 ♪

12:50~ 今村つばささん ♪

13:10~ アースデイとやま 2025 ユーストーク

13:30~ sanapit jazz tio feat G2-1 さん ♪

14:00~ 石川征樹さん (ギター) ♪

14:30~ デイジュリドゥ演奏 Hide Yidakjapan さん ♪

14:50~ LIRA BANDIA さん ♪

15:15~ 高谷美也子蝶々さん&のほほん♥ベリーさん ♪

15:35~ AVOUDE さん (RORO) ♪

16:00 クロージング (副実行委員長 橋本順子さん)

学生会館ホールでは、前述のように映画上映が行われました (図 6)。上映作品の「地球交響曲 ガイアシンフォニ



図 6. 上映作品のポスター

一」(監督:龍村 仁)は、「メッセージ性の強いドキュメンタリー映画ですが、つねに、「地球の中の私、私の中の地球」(この言葉は、1992年ブラジルで開かれた「環境と開発に関する国連会議」の提案書に使われていました)という、とても大事なテーマが語られています」(GAIA SYMPHONY ホームページより)。今回上映された「第一番」(1992年)から、現在までに第九番までが制作されています。

また、学生会館ホールでは、会場が富山大学であることから、2008年、2024年に引き続きこの大学で行われているさまざまな環境問題に関する研究や活動をポスター発表で紹介する企画、「環境やつてます in 富大 Part III」を行いました(図7)。会場には「山と環境」、「水・海と環境」、「生き物と環境」の3つのコーナーを設け、以下の先生方と関係者による17件のご発表がありました。

#### <山と環境>

理学部 柏木健司先生「洞窟研究\_地球環境の優秀なアーカイブ」

都市デザイン学部 堀田耕平先生「立山火山地獄谷における地盤変動観測」

都市デザイン学部 杉浦幸之助先生「立山連峰内蔵助カールの眺め:変容する雪氷環境」

都市デザイン学部 安江健一先生および研究室一同「大学生がフィールドで学ぶ「アテラボ」～活断層の知識を深め、研究意欲を高める～」

#### <海・水と環境>

都市デザイン学部 田口文明先生「海洋温暖化の「ホットスポット」日本海における水温ジャンプ」

理学部 張 勁先生および研究室一同「水のソムリエ:富山の名水」

理学部 張 勁先生、堀川恵司先生および研究室一同「富山湾の魅力体験:親子教室」

理学部 張 勁先生および三神崇重氏ら

「胃内容物と同位体比から推定したベニズワイガニの成長に伴う食性の変化」

理学部 堀川恵司先生および宮沢爵宏氏ら「過去1300年間における北極海西部の大気・海洋循環の変動と海氷減少との関連」

#### <生き物と環境>

理学部 蒲池浩之先生「重金属を蓄積する奇妙な植物「ヘビノネゴザ」

理学部 田中大祐先生「富山県の大気・水環境中に生息する微生物の解析と利用」

理学部 酒徳昭宏先生「真珠形成母貝アコヤガイの大量死や低品質真珠形成を引き起こす殻黒変病に関する研究」

理学部 佐藤杏子先生「植物の染色体研究で挑戦する生物多様性の保全・持続可能性社会の実現」

理学部・サステナビリティ国際研究センター Peterson Miles Isao先生「外来魚問題 マネジメント視点からの研究」

理学部 太田民久先生「安定同位体と生物」



図7. 環境研究ポスター発表の例(「海・水と環境」)

理学部 木下豪太先生「冬に白くなるノウサギの進化と気候変動」

理学部 横畑泰志先生「日本のモグラたち、それぞれの課題 ー絶滅危惧種も普通種も」

昨年度の Part II ではホールの半分ほどを仕切って特設のコーナーを設けることができましたが、今回はホールの大部分を映画上映の座席に用いたため、上映中は暗くなるのでポスターを見ていただく時間が短くなってしまいました。また、会場の大半を占める座席の左右に1列ずつポスターが並ぶことになり、一体感のある企画とすることが困難でした。昨年と同じ内容のポスターも多くなり、熱心に見ただけの一般参加者の数も、前回と比べて少なかったように思われ、今後同様の企画を繰り返すことは難しいと感じられました。アースデイとやま 2026 も会場が同じ五福キャンパスであることから、その利点を生かす試みを新たに考える必要があるでしょう。

### ■アースデイとやま 2025 の参加者数について

オンライン開催の場合を除く、近年のアースデイとやまの一般参加者数は、富山市ファミリーパーク無料ゾーンを会場としてきたことから、有料ゾーンの来場者数（参加者数の最大推定値と解釈される）と無料ゾーンの来場者数（参加者数の最小推定値と解釈される）の中間の値を取って推定されてきました。その結果、2019年においては2,500人前後、2022年は概ね1,800人と推定しています。こうした一般来場者数には、イベントの内容や情報宣伝活動の他に、天候や同じ日に開催される他の行事の影響などの外部要因が影響します。2023年以降はそのような根拠になる数字が得られないと予想されたので、写真撮影による来場者数の推定を行い、それぞれ257.6人、452.4人という結果を得ました。今年度もこれと基本的に同じ方法で、来場者の推定を行いました。

方法としては、会場において11時00分前後、13時00分前後、15時00分前後の3回、理学部の建物から見た学生会館前の広場、その広場から見た生協食堂側の会場、学生会館内のホール、学生会館内のステージで(実写真は昨年度の報告書を参照)、ほぼ2時間おきに4枚ずつ写真を撮影し、写っている人数を数えて合計、平均値を算出しました(表1)。その結果、11時が63人、13時が102人、15時が91人となり、平均では85.33人が会場にいたこととなります。さらに写真上で前後に重なったり、物陰などの死角に隠れたり、撮影範囲の外にいる人数を補正するために、2025年度と同様に1.5を乗じることにしました。

アースデイとやまの来場者の平均滞在時間は、2008年(富山大学)と2009年(富山灌漑公園)のアンケート調査ではそれぞれ139.3分、153.2分となっており、会場もテーマも天候(2008年は晴天、2009年は雨天)も異なるにも関わらず、大きな違いはありません。そこでおよその滞在時間を150分とすると、今回は開始から終了までが6時間でしたので、360分/150分で平均2.4回来場者が入れ替わっています。そこで、昨年と同じ計算で、

$$85.33 \text{ 人} \times 1.5 \times 2.4 \div 307.2 \text{ 人}$$

が今年の推定来場者数となりました。コロナ禍前の富山市ファミリーパークで開催していた頃よりも少ない値になっていますが、会場で来場者数を直接数えているので、こちらのほうが正確であると考えられ、ほぼ同じ方法で推定した昨年の2/3ほどになります。問題点としては、一般来場者よりも滞在時

表 1. 写真撮影による各時刻・場所ごとの人数

時刻	学生会館正面	食堂側	ホール	ラウンジ	計
11時	20	19	8	16	63
13時	38	22	30	12	102
15時	29	23	2	37	91

間が長いはずの実行委員やボランティア、出展・出店者を含めて数えている点で、仮にそれらを区別したとすると、入れ替わり回数が少ない集団を含むことになるため、推定値はさらに下がります。

## ■アースデイとやま 2025 の会計報告と今後の展望について

ここでは、まずアースデイとやま 2025 の収支（表 2）について述べます。アースデイとやまは毎年、前年度からの繰越金で情報宣伝などの比較的早期に必要な経費を賄ってきました。2024 年度に引き続き、2025 年度も富山大学を会場としたことで会場費や備品のレンタル料が削減され、繰越金が 14 万円余りから 17 万円余りに増加して、3 年間にわたる新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン開催の影響などで危ぶまれていた財政上の問題から脱却することができました。現在の形を取り続けることができれば、アースデイとやまは財政的には持続可能であると考えられます。

財政上の問題に加えてコロナ禍以降心配されていたのがボランティアの減少であり、特に世代交代の速い学生団体によるボランティア活動がコロナ禍による数年の中断によりアースデイとやまとのつながりや活動全般の持続が難しくなることが懸念され、実際にその傾向は顕著に表れていました（図 1）。幸い 2025 年度は前年度に比べて改善が見られましたが、コロナ禍以前の人数には達していません。今後

表 2. アースデイとやま 2025 収支（左：収入の部；右：支出の部；2025 年 6 月 30 日現在）

収入の部		(単位:円)		
科目	摘要	本年度予算	本年度決算	予算比
賛同金		170,000	163,000	-7,000
	出展出店料	137,000	116,000	-21,000
	一般賛同金	20,000	17,000	-3,000
	後援料	10,000	10,000	0
	当日募金	3,000	20,000	17,000
当日収入		15,000	3,000	12,000
	備品貸し出し	10,000	3,000	-7,000
	実行委員フリマ	5,000	0	-5,000
前年度繰越金		147,222	147,222	0
当年度収入合計		332,222	313,222	-19,000
支出の部		(単位:円)		
科目	摘要	本年度予算	本年度決算	予算比
会場費		45,500	0	-45,500
	事前説明会会場費	2,500	0	-2,500
	当日会場費	42,000	0	-42,000
	当日設備使用	1,000	0	-1,000
保険料	当日保険料	10,000	9,910	-90
ボランティア		32,500	23,563	-8,937
	ボランティア謝礼	29,000	19,600	-9,400
	ボランティア消耗品	3,500	3,963	463
設営		54,000	38,000	-16,000
	テント等備品レンタル	13,000	0	-13,000
	車両運搬費（バンパー）	11,000	10,000	-1,000
	シンク設置	5,000	5,000	0
	備品レンタル	3,000	3,000	0
	車両運搬費（レントオール）	12,000	0	-12,000
	音響機材謝礼	10,000	20,000	10,000
	音響機材謝礼、当日運営謝礼 2名分	10,000	20,000	10,000
広告宣伝費		32,500	23,732	-8,768
	HP管理費	2,500	2,310	-190
	チラシ印刷	30,000	21,422	-8,578
事務局経費		10,500	39,263	28,763
	通信費	1,500	0	-1,500
	消耗品	4,000	3,843	-157
	振り込み手数料	2,000	2,420	420
	その他	3,000	33,000	30,000
当年度支出合計		185,000	134,468	-50,532
次年度繰越金		147,222	178,754	31,532

はボランティアの主力である学生ボランティアの集まりやすい時期に開催できるよう、対応していく必要があります。アースデイとやま 2026 は、これまでの6月よりも早めて、5月終盤の開催を予定しています。

一方で、これまでに述べた出展・出店者や一般来場者数の減少を考慮すると、アースデイとやまが本来の目的である環境意識の啓発に相応しい内容を継続できるためには、今後さまざまな新しい企画を立ち上げ、一部は過去に行っていた活動を再開し、充実を図っていく必要があります。その一つとして、アースデイとやまは全国各地で行われているアースデイのイベントの最も象徴的な活動の一つである「ディッシュ・リターン」（一般来場者自身による食器の再利用）をコロナ禍以降行っていないが、今後のその復活が一つの契機となるかもしれません。さらに特に近年、毎年のテーマを担うべき実行委員会自身による企画が有力な実行委員の高齢化、引退、あるいは多忙化によって減少する傾向がみられ、PEC とやまにワークショップなど多くを依存しているのが実情です。PEC とやまはアースデイとやまを母体として設立された、共通項の非常に多い団体ではあるものの、独立した意義と目的を持つ組織に毎年異なるアースデイとやま固有のテーマを実現していただくには限界があるでしょう。

この他にもさまざまな改善していくべき点がありますが、アースデイとやま 2026 は「問い直そう、大地と人のつながりを」をテーマに、再び五福キャンパスを会場とする予定で準備が動き出しています。全国的にも1991年から毎年欠かさず純粋に一般市民の手で開催されてきたアースデイとやまは高く評価されています。日本各地のアースデイの緩やかな連合体であるアースデイ・ジャパン・ネットワークが作成している“Earth Day Map 2025”によると、2025年には全国で154件のアースデイ関連行事が予定されていたようですが (<https://earthday-japan-network.com/earthday-map-2025/>)、富山県内でも今後も可能な範囲で、「人々の心に環境の火を灯す」活動を続けていきたいものです。



アースデイとやま 2025 当日に参加したスタッフ一同（実行委員およびボランティア学生・社会人）